

9801 と聞けば、昭和57年に爆発的に売れた某N社から発売されたPC-9801というパソコンを思い浮かべる方も多いと思いますが、その辺の話題も合わせてお話しします。

逆数

9801⁻¹ を計算してみると小数点第一位から

0.0001020304050607080910111213141516171819202122232425262728293031323334353637383940
4142434445464748495051525354555657585960616263646566676869707172737475767778798081
828384858687888990919293949596979900010203

と綺麗な数字が並びます。循環節の長さは00~99で98が無いので節の長さは200 - 2桁です。これはどうしてか？ は、何故98が無いかに通じるところがあります。98は無いのではなく計算過程で後ろに引っ込んでいるからで、次のような加算が続いているからです。

$$\begin{array}{r}
 0.00 \\
 01 \\
 02 \\
 \dots \\
 97 \\
 98 \\
 99 \\
 100 \\
 101 \\
 \dots \\
 \hline
 0.000102 \dots 979900010203 \dots
 \end{array}$$

上記の計算は、10進の2桁なのでこれを100進数と思えば次のように表現できます。

$P = 10^{-2}$ と置いて、

$T = 0 \cdot P + 1P^2 + 2P^3 + 3P^4 + \dots + (n-1) P^n + nP^{(n+1)} + \dots$

この式の両辺にPを掛けると

$P \cdot T = 1P^3 + 2P^4 + 3P^5 + \dots + (n-1) P^{(n+1)} + nP^{(n+2)} + \dots$

式から 式を引くと

$(1 - P) \cdot T = P^2 + P^3 + P^4 + \dots + P^n + P^{(n+1)} + \dots = P^2 / (1 - P)$

故に $T = P^2 / (1 - P)^2$

Pを10⁻²で戻すと

$T = (10^{-2})^2 / (1 - 10^{-2})^2 = 1 / (100 - 1)^2 = 9801^{-1}$

となります。一般的に10⁻ⁿ (進法) で置き換えると、数字の並びが(10ⁿ - 1)²であれば(10ⁿ - 1)²の逆数は綺麗な循環小数になり、循環する桁数はn(10ⁿ - 1)桁です。上記はn=2の場合ですので(10² - 1)² = 99² = 9801です。桁数は2・99 = 198桁。n=1は9²で電卓で慣れ遊んだ数値81⁻¹ = 0.012345679 . . . となります。

桁の大きい方は順に、998001, 99980001, 9999800001です。

又、上記においてPは10のn乗進法でしたが、P = N (N進法のN) と置いても上記は整理します。

故に一般式は、 $T = (N - 1)^{-2}$ となります。例えば N = 8 (8進数の例)は

$(8 - 1)^{-2} = 49^{-1} = 0.01234570123457 \dots$ となります (やはり6が無い)

回文

今度は、9801を9で割ると1089となります。するとア！！数字がひっくり返った。さらにひっくり返った1089に1, 2, 3, 4, ..., 8, 9を掛けて出てくる数字は順に1089, 2178, 3267, 4356, 5445, 6534, 7623, 8712, 9801となります。よく見ると前から読んでも後ろから読んでも同じ数字の並びです。回文だ！！これは次のルールに則っているからです。

1089 x N (1~9) 先頭の“1 x N”はそのままNが出てきます。末尾の“9 x N”は“(10 - 1) x N”ですから10に対するNの補数が出てきます。さらに、上位の桁にN - 1を繰り上げてます。これで最上位桁と最下位桁の回文が成立します。次に、中2桁の“08 x N”は九九の八の段そのものにそれぞれ繰り上がってきたN - 1が足されます。(10 - 2)N + N - 1 = 9N - 1。これは九九の九の段から1を引いてますので、10位は0, 1, 2, ..., 8で1位は8, 7, ..., 1, 0と回文です。これで中の二桁も回文が成立します。

さらに、4桁より大きい数値は、上記の“08 x N”のルールを担保するように桁を増やせばOKです。具体的には9999...9999と言うフィルターを0と8の間に挿入します。

0 999999...999 8 x N + (N - 1)の計算は“8 x N”の桁上がりを99...99が保証して最上位まで運んでくれます。そのとき99...99そのものは変化しないので結果的に全体が回文になります。

次に、上記回文は10進数ですがこれを2進から16進まで拡張して検証してみました。

10進数で行った“1089 x N”の論理がそのまま適用できます。結果は次の通りです。

- 2: 1001
- 2: 1111
- 3: 1012 2101
- 4: 1023 2112 3201
- 5: 1034 2123 3212 4301
- 6: 1045 2134 3223 4312 5401
- 7: 1056 2145 3234 4323 5412 6501
- 8: 1067 2156 3245 4334 5423 6512 7601
- 9: 1078 2167 3256 4345 5434 6523 7612 8701
- 10: 1089 2178 3267 4356 5445 6534 7623 8712 9801
- 11: 109a 2189 3278 4367 5456 6545 7634 8723 9812 a901
- 12: 10ab 219a 3289 4378 5467 6556 7645 8734 9823 a912 ba01
- 13: 10bc 21ab 329a 4389 5478 6567 7656 8745 9834 a923 ba12 cb01
- 14: 10cd 21bc 32ab 439a 5489 6578 7667 8756 9845 a934 ba23 cb12 dc01
- 15: 10de 21cd 32bc 43ab 549a 6589 7678 8767 9856 a945 ba34 cb23 dc12 ed01
- 16: 10ef 21de 32cd 43bc 54ab 659a 7689 8778 9867 a956 ba45 cb34 dc23 ed12 fe01

桁を大きくする時も10進数で用いた99・・・999フィルターの論理はそのまま適用できます。

例として、

8桁の場合は、1067の5桁、6桁バージョンは 10767, 107767・・・です。

一般式は次のようになります。nはn進数のnで、 $n \geq 2$ です。

“ 1、0、n - 1、n - 1、・・・n - 1、n - 2、n - 1 ” x [1, 2、・・・n - 1]

終わりに、某N社様にPC - 9801の命名秘話を伺いましたが、あっけなく次の返事でした。

当時開発していた機種がPC - 8001、PC - 8801で、その次の機種なので・・・というサプライズは無し of 回答でした！！。